

平成 30 年度 自己評価表

中長期目標 (学校ビジョン)	多様な学習歴やニーズを持つ生徒の学習を支援し、社会で共生する資質と自立の基盤となる能力・態度を育む。	今年度の 重点目標	1 学ぶ意欲の喚起・育成 2 心豊かに他と共生する態度の育成 3 社会的な自立に向けた支援
---------------------------	--	----------------------	---

年 度 当 初					評 価 結 果 () 月		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
1 学ぶ意欲の喚起・育成	○授業、面接指導(スクーリング)の改善	○授業を大切にしている態度を育てることが必要である。	○学習に集中し、意欲的に授業に参加することができる。	○ユニバーサルデザイン・合理的配慮の観点を取り入れた授業の展開 ○授業のための全職員による情報共有 ○支援が必要な生徒への個別指導			
	○生徒理解と環境整備	○生徒のおかれた状況を理解し、学ぶ意欲を高める必要がある。	○生徒が、安心して学校生活に取り組むことができる。	○個人面談・Hyper-QUの実施による生徒理解と個別支援の充実 ○SC・SSW・白鳳サポーター・特別教育支援員との連携 ○通級指導教室の環境整備			
	○ICT活用教育の推進	○ICT化の進展に伴い、情報活用能力の育成が必要である。	○ICTの活用ができる。	○ICT活用のための教員研修 ○各教科でのICT活用の推進 ○NHK高校講座でのICT活用			
2 心豊かに他と共生する態度の育成	○規律指導	○挨拶、言葉遣いなど基本的な生活習慣を身につける取組が必要である。	○すすんで挨拶をし、社会人として必要な言葉遣いすることができる。	○遅刻・欠席の防止指導 ○積極的な挨拶・声かけ ○社会人としてのマナー指導 ○健康管理指導の推進			
	○自己理解・他者理解の促進	○人間関係力の育成をする環境づくりが必要である。	○生徒同士の信頼関係を醸成し、クラスがお互い尊重し合っている居心地の良い場となる。	○生徒理解のための教員研修の実施 ○通級指導の実施 ○エンカウンターの実施			
	○体験活動とおとした社会性の育成	○社会的体験を積み重ね、さらに社会性を高める必要がある。	○諸活動において、自らすすんで行動し自信と責任を持って活動することができる。	○定通充実事業(チャレンジものづくり体験・テーブルマナー講習・乗馬体験・校外研修・蔵書点検ボランティア)の実施 ○アルバイト、ボランティア活動の推進			
	○地域・社会との交流	○地域との交流をおし、地域社会や周りの環境に対する関心を高める必要がある。	○地域社会や環境に関心をもち、異世代とのコミュニケーションができる。	○さつまいもの植付・収穫・会食を通じた園児との交流 ○銭太鼓、傘踊り体験 ○マツムシソウ、ヒガンバナの植栽活動			
3 社会的な自立に向けた支援	○キャリア教育の充実	○社会の変化に対応するため、進路意識を早期に向上させる必要がある。	○進路に対する意識付けと自分の適性にあった進路実現を達成することができる。	○就職・進学講演会の開催 ○個別面談や相談の実施 ○学年団・CAと連携した進路指導			
	○「産業社会と人間」 「総合的な学習の時間」の充実	○社会的自立に向けて、さらに系統的な学習の確立が必要である。	○社会的自立に必要なスキルが、学年に応じて徐々に身につけている。	○系統的な学習プログラムの構築 ○学習成果発表会の実施 ○面接・着こなし講習会の実施			
	○関係機関との連携	○支援が必要と思われる生徒について、関係機関との連携が必要である。	○個々の生徒が、それぞれ進路相談および進路活動の充実により進路実現を図ることができる。	○上級学校・事業所見学の実施 ○ハローワーク、若者サポートステーション、障害者就労・生活支援センターとの連携 ○インターンシップの推奨			

評価基準 A: 目標を達成している B: ほぼ計画どおり推進している C: 取組がやや遅れている D: 一層の取組が必要である E: 目標・方策の見直しが必要である

<100%>

<80%程度>

<60%程度>

<40%程度>

<30%以下>